

4 令和3年度 前期教職員自己評価集計結果

I 学校経営・組織・安全管理

I 学校経営・組織・安全管理		-		昨年度なかった項目		昨年度関連2項目の平均値		昨年度関連分野の数値				
NO	評価項目	回答数	R3 前期	判定	R2 前期	R2 後期	4の 回答数	3の 回答数	2の 回答数	1の 回答数	肯定的 回答%	否定的 回答%
1	学校教育目標の達成に向け、 学校経営方針に基づいた学校運営 がなされている	31	3.7	A	3.8	3.8	23	8	0	0	100%	0%
2	教職員間の 相互理解 が十分になされ、信頼関係のもと 協働的に教育活動 が行われている	30	3.4	A	3.6	3.7	13	17	0	0	100%	0%
3	施設設備 について定期的に点検し、結果を的確に処理（整備・保全）している	31	3.9	A	3.9	3.8	28	2	1	0	97%	3%
4	事故や災害等に対し、適切な対応マニュアルが整備され、 危機管理 に努めている	31	3.7	A	3.8	3.8	21	10	0	0	100%	0%
5	生徒の個人情報 について、適切に管理・保護されている	30	3.7	A	3.7	3.6	20	10	0	0	100%	0%
6	新型感染症等について、正しい知識で 感染防止対策 に取り組むよう努めている	31	3.8	A	3.1	3.4	25	6	0	0	100%	0%
7	ライフ・ワーク・バランス を意識した業務改善に取り組んでいる	30	3.3	A	-	-	12	15	2	1	90%	10%

【記述による回答】

○施設設備の定期点検結果の一覧を提示していただき、とてもわかりやすく、また状況が皆で把握できてよいと思います。すぐに修繕の対応をしていただきありがとうございます。

○学校生活が、安心・安全の上に成り立っていることが感じられて、甲西中学校の経営は素晴らしいと思います。

□学校全体としては、学校経営方針に基づき生徒のための教育活動ができていていると思うが、自分が組織の一員としてしっかり役目を全うできているかは不安です。もっと何かできるのでは？と考え、積極的に関わっていきたいと思います。

▼朝の打合せがないので、連携不足なところがある。

▼やや一部のみに仕事が偏ってしまっている。

▼超過勤務の実態は、変わっていない。

▼働き方改革の面で、計画的な休日がなかなか難しいと感じている。これは、曜日によって勤務される先生が異なる場合があり、授業変更の難しさが一因と思われる。

▼昨年に比べ、総仕事量と人数の割合が大きく変わっているので、総仕事量も減らすことをしないと、一部の人がどうしても多忙になってしまうと思います。（水泳の仕事を持っている鈴木Tとか）何とかできないかと思っています。

▼私は業務改善できていないと思う。時間外勤務がかなり多くなっている現状があり、またそれを改善できる見込みも現状ではない為。学校外に抱える業務の比重が多くなってしまい、不本意ながら学校・学年に迷惑をかけてしまっている。まずは、正確な勤務実態の把握が必要だと思うが、本校では土日（週休日）の勤務は記録していない。県教委の調査では、土日の勤務（部活動を含む）も時間外勤務に含んでいる。小さなことだが、そういうところから改善していければと思う。

II 教育課程・学習指導

Ⅱ 教育課程・学習指導						－	昨年度なかった項目						
NO	評価項目	回答数	R3 前期	判定	R2 前期	R2 後期	4の 回答数	3の 回答数	2の 回答数	1の 回答数	肯定的 回答%	否定的 回答%	
8	新学習指導要領に基づき「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた教育活動の実践を目指している	30	3.6	A	3.7	3.6	19	11	0	0	100%	0%	
9	校内研究の主題である、学び合いを通じた確かな学力の向上に向け、授業改善に取り組んでいる	30	3.6	A	3.2	3.4	18	12	0	0	100%	0%	
10	道徳の授業の充実に努めるとともに、他者を思いやる心や規範意識を育てる教育活動を日常的に実施している	30	3.5	A	3.6	3.5	17	12	1	0	97%	3%	
11	GIGAスクール構想の実現に向け、1人1台端末の積極的な利用に努めている	30	3.4	A	-	-	14	14	1	1	93%	7%	

【記述による回答】

○さまざまな状況に対応して指導している若い教師集団の力が、柱となっていると思います。

□多くの先生方が、GIGAスクール関係に意欲的に取り組んでくれている。私自身遅れを感じているので、頑張っていきたい。

▼（以下、GIGA端末／タブレットに関して）

- ・自分はあまり使えていない。 ・ほとんど活用できていません。すみません。 ・自分は、まだ使っていないので。
- ・担任のみの所有で、フリーの教員が自由に使用できる環境にない。

Ⅲ 生徒指導・教育相談・特別支援教育

昨年度関連2項目の平均値

NO	評価項目	回答数	R3 前期	判定	R2 前期	R2 後期	4の 回答数	3の 回答数	2の 回答数	1の 回答数	肯定的 回答%	否定的 回答%
12	生徒の問題行動に対し、報告・連絡・相談の体制が確立され、共通理解の上で組織的に対応している	31	3.7	A	3.8	3.6	23	8	0	0	100%	0%
13	いじめの早期発見に努めるとともに、早期解決に向けて組織的に取り組んでいる	31	3.7	A	3.8	3.7	21	10	0	0	100%	0%
14	保護者との対応や関係諸機関（SC・SSW・SS等）との連携が、スムーズに行われている	30	3.7	A	3.8	3.7	21	9	0	0	100%	0%
15	養護教諭やスクールカウンセラーなどとの連携が、教育相談に生かされている	30	3.8	A	3.9	3.8	24	6	0	0	100%	0%
16	「師弟同行」を実践するとともに、教師が生徒の模範や理解者・支援者となりえている	30	3.4	A	3.6	3.5	13	16	1	0	97%	3%
17	不登校傾向のある生徒の支援に配慮し、必要に応じて関係機関と連携を図りながら対応している	30	3.6	A	3.7	3.7	17	13	0	0	100%	0%
18	特別支援教育について共通理解が図られ、保護者や生徒の抱える諸問題に真摯に対応し、個別の支援計画に基づいて手立てが進められている	30	3.5	A	3.6	3.5	15	14	1	0	97%	3%

【記述による回答】

○生徒や保護者の心に常に寄り添った支援体制が確立されていると思います。
 □特支クラスのほとんどの生徒が明るく、伸びのびオープンに過ごしている様子は良いと思います。クラスにフルに来られない生徒の援助、適切な対応が、さらに手厚く望まれるところだと思います。
 □生徒たちもある程度落ち着いているので助かっているが、油断できない。特に不登校については、何とかしたい。
 ▼タバコを吸ったり、スマホをいじったりすることは問題ないと思いますが、やはり生徒の目につかないところでしてほしいです。この前生徒に「タバコ吸っている先生に、タバコを吸うなって言われても説得力ない」と言われ、何と答えていいかわかりませんでした。
 ▼個別の支援計画に基づいてという点では、まだ十分ではない。
 ▼共通理解のための時間があまりとれていない。

Ⅳ 特別活動

NO	評価項目	回答数	R3 前期	判定	R2 前期	R2 後期	4の 回答数	3の 回答数	2の 回答数	1の 回答数	肯定的 回答%	否定的 回答%
19	学校行事や生徒会活動等の取り組みが、生徒の自主性や協調性を養い学校生活の充実につながっている	30	3.5	A	3.5	3.6	14	16	0	0	100%	0%
20	部活動は、主体的・意欲的な取り組みを通じて達成感を得られるよう、運営の工夫がなされている	31	3.7	A	3.6	3.7	23	8	0	0	100%	0%
21	合唱を推進する活動が、計画的・効果的に行われ、生徒の心の教育や集団づくりに役立っている	30	3.4	A	2.9	3.5	14	15	1	0	97%	3%
22	朝・帰りのあいさつ運動などを通して、あいさつができる生徒の育成に努めている	31	3.5	A	3.1	3.3	17	14	0	0	100%	0%

【記述による回答】

○先生方のアイデアを取り入れながら、新しい特別活動が設定されていると思います。
 □先生方の準備は大変だと思うが、生徒たちが自治的な活動ができるように、しっかりと準備をして生徒が前に出ている活動になるように、職員が協力していけたらと思っている。
 ▼コロナ禍で不十分なところがややある。

Ⅴ 保護者・地域連携

NO	評価項目	回答数	R3 前期	判定	R2 前期	R2 後期	4の 回答数	3の 回答数	2の 回答数	1の 回答数	肯定的 回答%	否定的 回答%
23	生徒の学習や生活の様子を保護者に知らせ、保護者との相互理解を図り、連携している	31	3.5	A	3.7	3.6	17	14	0	0	100%	0%
24	各種たよりやホームページ・学校連絡メールを活用し、保護者や地域への情報提供に努めている	31	3.7	A	3.8	3.7	21	10	0	0	100%	0%

【記述による回答】

○学校メールや文書など、多く出ていると思う。
 ○教育熱心な地域なので、有事の時は団結して乗り越えられると思います。

5 前期教職員自己評価の考察

(1) 教職員自己評価集計結果の概略

教職員自己評価については、31名（非常勤・市職員含む／職務内容により回答不能な項目は未回答とした）より回答を得た。評価対象である全24項目が、平均3.3以上のA判定であった。また、肯定的回答率は、100%の項目が17項目、97%が5項目、93%と90%がそれぞれ1項目ずつであった。この結果から、本校の教職員が、学校教育目標並びに学校経営方針を概ね意識して教育活動（職務）の遂行に努めていることが見てとれる。なかでも、**9**「校内研への取り組みと授業改善」、**22**「あいさつができる生徒の育成」に関わる項目については、昨年度比でも顕著に上回る数値が認められた。

しかしながら、評価平均3.5未満（A判定であるものの、やや低めであると判断した）の項目が5項目あり、また昨年度比でやや低下傾向のみられる項目も見受けられるため、検討を要する。

終息の期待されていたコロナ禍も、納まる兆しがみえず、さらに拡大の懸念さえ感じられる現状である。昨年度来、新しい生活様式による学校生活には少しずつ慣れつつも、本来あるべき学校教育活動における基準の変化に矛盾や戸惑いを隠せない現況のなかで、一層状況の変化に対応していく力が求められている。

(2) 各分野ごとの考察

I 学校経営・組織・安全管理

2「教職員間の相互理解と協働的な教育活動」の項目は、3.4とやや低めの評価が示され、昨年度の項目内容と文言を変更してはいるものの、関連項目と比較して低下傾向もみられる。要因としては、記述回答にもあるように、コロナ対応の為朝の打合せを削減したことによる連携不足や職務内容による仕事量の偏りが考えられる。インフォメーション等の活用により全体への周知や情報交換を促進してきてはいるが、確認不足もある為、伝達手段の再検討や工夫が必要である。また、学年職員を基本単位として、可能な範囲での役割分担の見直しや協働体制の確立を図りたい。多忙化解消に向けた会議等の精選・削減も相まって、全体で確認する機会が減少傾向にある為、日常活動におけるコミュニケーションもより一層大切となる。

6「正しい知識による感染防止対策」の項目は、3.8と比較的良好な評価が示された。昨年度関連分野の項目「今日的な健康課題への対応」に比べ大幅に向上しているものの、内容を精選している為単純比較はできない。今後も置かれている状況を見定めながら、適切な対策を講じていきたい。

7「ライフ・ワーク・バランスと業務改善」の項目は、3.3と低めの評価が示され、肯定的回答率も90%と全項目のなかで一番低い結果であった。多忙化解消・働き方改革については、ここ数年でクローズアップされてきてはいるものの、教職における長年の課題でもある。そして、そのような懸案事項でありながら、軽減・解消に向かう以上に細分化・複雑化して新たな課題を生み出している職務内容もある。中学校における懸案事項の大きな一つに部活動が挙げられるが、地域移行に向けた投げかけはなされているものの、諸条件が整うまでにはまだまだ時間がかかりそうである。また、本校にも専門部役員等の要職を担っている職員がおり、大きな負担を負っている。このような校内だけでは解消・改善に向かえない事項については、現状を把握するなかで、外部に向けた要望事項等を継続して発信していく必要がある。

校内においては、アクションシートをもとに、①出退勤時刻の管理と見える化（来年度からは新校務支援システムによる）、②定時退校の勧奨（定時退校日の設定）、③計画年休取得の勧奨（勤務曜日の違いにより設定の困難さもあるが）、④ガイドライン（校内活動規定）に則った部活動の適正な運営、⑤会議の精選（重複内容の削減）と効率化（ICT等を用いた情報伝達の工夫）、⑥役割分担の見直しと協働体制づくり等に一層の工夫・改善を加えていく。

II 教育課程・学習指導

9「校内研への取り組みと授業改善」の項目は3.6の評価であり、長期にわたる臨時休校に見舞われた昨年前期より0.4ポイント、後期より0.2ポイント上回った。休校措置がとられな

かったことも数値に反映されていることと思うが、継続するコロナ禍において、学び合いを実現するための工夫や授業改善に向けた努力が評価に表れてきているものと捉えられる。

11「GIGA スクール構想実現に向けた端末の積極的利用」の項目は、今年度新たに加えた項目であるが、3.4 とやや低めの評価が示された。多くの教職員は、工夫して積極的な利用を試みているものの、個人的には活用に手をこまねている職員もいる。全教職員で、トライアル・アンド・エラーを基本に、躊躇することなく取り組みを進めていきたい。なお、担任以外の教職員には端末の割り当てがない為、今後必要に応じて市当局にも要望していく。

先の見通しの立たないコロナ禍において、オンラインによる授業を含め授業改善に向けては新たな要求に迫られることも十分に予想される。より柔軟性をもって対応できるように準備しておく必要がある。

Ⅲ 生徒指導・教育相談・特別支援教育

16「師弟同行の実践と生徒の模範・理解者・支援者」の項目は、3.4 とやや低めの評価であり、昨年比で低下傾向もみられた。要因の一つとして、記述回答にあるように、教職員の喫煙に関する点が挙げられる。本校は、比較的喫煙者率が高いものと思われるが、受動喫煙防止対策による健康増進法の改正に従い校地外で喫煙を行うようにしている。しかしながら、本校の立地条件から、喫煙状況が生徒の視野に入ってしまうことも多く、学校という対象の限定された職場環境においては、改善の必要性も生じてくる。教職員の健康管理の意味合いからも喫煙については検討・改善を図りたい。

17「不登校支援」・18「特別支援教育」の項目については、特別に評価が低いわけではなく、また顕著な低下もみられないが、不登校傾向の生徒も一定数おり、個別の支援計画に基づいた指導・支援という点では、計画－実践が十分ではないとの指摘がある。また、共通理解のための時間があまりとれていないという意見もうかがわれた。夏季休業中には校内支援委員会も計画されており、全職員で共通理解を得るなかで、個に応じた支援の見直しを進めたい。

Ⅳ 特別活動

21「合唱活動の推進」の項目については、昨年同期比では0.5ポイントの上昇がみられるものの、3.4 とやや低めの評価が示された。昨年度に比べると、コロナ禍での制限が解除されたことにより多少は活動可能な時期もみられたが、感染拡大の波が繰り返して迫ることから、安定した合唱活動を進められていないのが現状である。

22「あいさつができる生徒の育成」の項目については、3.5 と特別に高い評価ともいえないが、昨年前期より0.4ポイント、後期より0.2ポイント上昇している。生徒会活動を中心とした取り組みの成果が表れてきている。なお、生徒アンケートの補足質問「甲西中のよいと思うところ・誇りに思うところ」の集計結果では、「あいさつ」に関わる回答が最も多く、120名以上の生徒が挙げていた。自らの行動により自己肯定感を高める良い連鎖が認められた。

前期（夏季休業まで）は、制限や削減された活動もみられたものの、昨年度実施できなかった部活動の大会などを、工夫するなかで何とか実施することができた。しかしながら、後期（2学期以降）の大会や学校行事の開催に向けては、予断を許さない状態が繰り返えされている。今後もしっかりと現況を見定め、何が可能か、どうしたら可能となるのかを熟慮していく必要がある。

Ⅴ 保護者・地域連携

23「保護者との連携」・24「情報提供」の項目については、3.5・3.7 と特別に低い評価ともいえないが、23については、昨年度比でやや低下傾向がみられた。新年度こそはといった希望的観測に反し、今年度前期も保護者に来校いただく機会をほとんど持てていないことから、保護者アンケートの欄外にも、学校の様子（学校生活や行事の様子・施設設備等）がつかめていない旨の記載がみられた。学校行事や校外学習等が多く予定されている後期の実施に向けた見通しも明確ではないことから、保護者や地域の方々に学校生活の様子や行事の実施状況を伝える手段として、ホームページ掲載内容の工夫や動画による情報提供などを検討していきたい。